

# 日本中世英語英文学会

## 第32回 西支部例会

日時：2016年6月4日（土） 13:00～17:15

会場：京都大学吉田キャンパス 文学部校舎 第6講義室  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町

電話 075-753-2736

アクセスマップ：<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/>

キャンパス案内：<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/about/access/>

第6講義室は文学部校舎2階

受付・総会・研究発表・特別講演：文学部第6講義室  
懇親会：カンフォーラ（京都大学本部構内）

日本中世英語英文学会西支部事務局  
〒700-0005 岡山市北区理大町1-1  
岡山理科大学教育学部 地村彰之研究室内  
Tel: 086-252-3161（代表）  
E-mail: [jimura@ped.ous.ac.jp](mailto:jimura@ped.ous.ac.jp) 又は  
[ajimura@hiroshima-u.ac.jp](mailto:ajimura@hiroshima-u.ac.jp)



## 第32回西支部例会プログラム

I 受付 (12:30~13:00) (文学部第6講義室)

II 開会式および西支部総会 (13:00~13:30) (文学部第6講義室)

司会 平山直樹 (尾道市立大学准教授)

日本中世英語英文学会会長挨拶

松田隆美 (慶應義塾大学教授)

開催校挨拶

家入葉子 (京都大学教授)

日本中世英語英文学会事務局報告

徳永聡子 (慶應義塾大学准教授)

西支部事務局報告・会計報告

地村彰之 (岡山理科大学教授)

会計監査報告

大野英志 (広島大学准教授)

会場案内

家入葉子 (京都大学教授)

III 研究発表 (13:30~15:50) (文学部第6講義室)

1. Aelfric の *Lives of Saints* における 'Conscience' を表す Vernacular Noun について：  
*Catholic Homilies* との比較 (13:30~14:10)

井野崎千代子 (大阪産業大学他、非常勤講師)

司会 藤井香子 (大阪大学他、非常勤講師)

2. *The Romaunt of the Rose-A* と *Troilus and Criseyde*

に見られる *gan* の比較 (14:20~15:00)

岩國智子 (広島大学大学院文学研究科博士課程後期)

司会 尾崎久男 (大阪大学准教授)

3. チョーサーの『トロイルスとクリセイデ』と『カンタベリー物語』

における韻律分析と比較 (15:10~15:50)

周躍 (広島大学大学院文学研究科博士課程後期)

司会 池上昌 (慶應義塾大学名誉教授)

IV 特別講演 中世の英語一思い出すまゝに一 (16:00~17:10)

(文学部第6講義室)

佐々部英男 (京都大学名誉教授)

司会 豊田昌倫 (京都大学名誉教授)

V 閉会の辞 (17:10~17:15) (文学部第6講義室) 吉川史子 (広島修道大学教授)

VI 懇親会 (17:30~19:30) 「カンフォーラ」(京都大学本部構内)

会費 4,000 円

## 研究発表1 Aelfric の *Lives of Saints* における 'Conscience' を表す Vernacular Noun について : *Catholic Homilies* との比較

井野崎千代子 (大阪産業大学他、非常勤講師)

司会 藤井香子 (大阪大学他、非常勤講師)

13世紀前半に書かれた *Ancrene Wisse* において借用語 *conscience* が善悪を見極める「良心」という意味で初出し vernacular の 'inwit' にグロスされているが、写本間照合によると *inwit* 以外の語彙使用の形跡が認められる。*Ancrene Wisse* を当概念を表す vernacular 表現における一つの分水嶺と見なし、それ以前の「良心」を表す vernacular を調査することを目的とし、本発表では10世紀末 Aelfric の *Lives of Saints* を取り上げ、昨年度日本中世英語英文学会全国大会で発表した *Catholic Homilies* での調査との結果を比較する。

*Catholic Homilies* では Godden(1980)(2000)も触れているように 'ingehyd' が当概念に対応する vernacular として用いられている。しかしこの語彙は当概念のみに用いられているのではなく、「良心」を離れた意味も持つ。また発表者の調査では、それ以外の vernacular noun や noun phrase において、当概念が表現されていると思われるものがある。更に本書第1、2巻の間にはこれらの語彙における使用状況の違いも見られる。

*Lives of Saints* は *Catholic Homilies* とは異なるジャンルに属し、時系列的には *Catholic Homilies* の後に書かれたものである。まず第一に、*Catholic Homilies* で使用されている 'ingehyd' の使用状況を確認し比較する。第二に、*Catholic Homilies* で発表者には当概念を表すと思われた、別な vernacular 表現に相当する語彙の存在について検討する。

Aelfric のこれら二つの作品において「良心」を表現する語彙の表出に関してどのような特徴があるのか、まだ初歩的段階ではあるが、現時点での調査結果を提示する。

## 研究発表2 *The Romaunt of the Rose-A* と *Troilus and Criseyde* に見られる gan の比較

岩國智子 (広島大学大学院文学研究科博士課程後期)

司会 尾崎久男 (大阪大学准教授)

Gan は中期英語の韻文において頻繁に現れるが、対応する古仏語は存在しない。本発表の目的は、Chaucer の作品に対する古仏語原典の影響を探りながら、Chaucer が古仏語原典を中期英語に翻訳する際に、gan をどのように活かしたのかを検証することである。

Chaucer は習作時代に、古仏語で書かれた *Le Roman de la Rose* を翻訳し後の作品を生む礎としたとされる。*Troilus and Criseyde* も Boccaccio の *Il Filostrato* や Benoît de Sainte-Maure の *Le Roman de Troie* など複数の原典を下敷きに書かれており、後者は古仏語の作品である。Windeatt は *Geoffrey Chaucer, Troilus and Criseyde* (1984) の中で、主たる原典である *Il Filostrato* では省かれているストーリー展開の部分を Book IV, V を中心として Benoît のストーリーを下地に描いている箇所があると指摘している。

さらに *The Romaunt of the Rose-A* と *Troilus and Criseyde* における gan の配置は散在的であり、物語の節目に gan が出現する傾向がある。これは、Brinton が *Pragmatic Markers in English* (1996) で指摘する、gan の discourse function を示唆するものである。Brinton は *Troilus and Criseyde* の gan の分布を Book I から Book V まで巻ごとに検証し、Book II では、トロイラスとクリセイデを再会させる全ての action が含まれるために gan の出現率が最も高くなっていると主張する。また、gan は foregrounded clauses の中に出現すると指摘している。

これらの論を元に再調査する際に、抽出可能な範囲においては古仏語原典対応箇所との比較を行い gan の用法を検証する。その際、gan と時制の関係性についても言及する。最後に、*Troilus and Criseyde* の gan だけでなく、*The Romaunt of the Rose-A* の gan についても考察し、古仏語原典の gan 対応箇所と比較することによって、作者の創作過程の一端を考察する。

### 研究発表 3 チョーサーの『トロイルスとクリセイデ』と『カンタベリー物語』 における韻律分析と比較

周躍（広島大学大学院文学研究科博士課程後期）

司会 池上昌（慶応義塾大学名誉教授）

本研究は、*The Riverside Chaucer* (1987)を用い、『トロイルスとクリセイデ』の第1、2巻と第3巻の冒頭を含む3,110行と『カンタベリー物語』の「総序の歌」と「騎士の物語」を含む3,110行をデータベース化し、二つのサンプルとする。

詩行には「強」(primary stress)、「半強」(secondary stress)及び「弱」(unstress)の3段階に分けた「強勢記号」と「休止」(caesura)記号をつける。それに基づいて、「弱強五歩格の行」(iambic pentameter lines)、「強弱格を持つ行」(lines with trochaic feet)、「弱弱強格を持つ行」(lines with anapestic feet)、「強勢のない音節を1つ以上欠いている行」(truncated lines)と「その他の行」(others)の5つのタイプに分類する。

はじめに「非弱強五歩格」の行に着目し、サンプル内でその行数と割合を統計で表すことで、特徴、効果、内容との関係などを分析する。それを踏まえ、両サンプルの比較を行う。また、すべての「弱強五歩格」の行を取り扱い、「休止」と「行跨り」(enjambment)の特徴も明らかにしていく。

先行研究として、松下知紀(2002)は「騎士の物語」の韻律分析をしたほか、西村政人(2010)は『トロイルスとクリセイデ』の全体を分析し韻律辞書まで編纂している。しかし、いずれの研究も「強勢」を「強」と「弱」の2段階に分けるにとどまっている。荻部恒徳ほか(2000)は3段階の「強勢記号」を用いたが、使用した写本は本研究と異なり、分析の対象は「総序の歌」のみである。

本研究では数字、図表などを用いて客観的にチョーサーの「弱強五歩格」の詩を分析し、彼の創作習慣を探る。また、サンプル間の比較によって、帝王韻詩と英雄詩体二行連句詩における各タイプの詩行の構成や分布などの区別とその理由も明らかにしたい。

## 特別講演

### 中世の英語 —思い出すまゝに—

佐々部英男（京都大学名誉教授）

司会 豊田昌倫（京都大学名誉教授）

今年の本学会の前身である中世英文学研究会の発足(昭和 40 年 10 月 15 日)から 51 年目にあたり、個人的に英語に志して 70 年になる。日暮れて道遠したが、以下の点について記憶をたどってみることにする。

1. 中世の英語との出会い—京都大学文学部時代
2. 1960～61 年のオックスフォード
3. C. L. Wrenn 教授
4. 中世英文学研究会
5. *Beowulf* 1.218 「飛ぶ鳥」「水鳥」論争について



## 京都大学本部構内キャンパスマップ及び交通アクセス



近鉄京都駅、JR 京都駅から京都市バス（206 系統、17 系統）  
 京都駅 → 京大正門前または百万遍（約 35 分）

阪急河原町駅から京都市バス（201 系統、3 系統、17 系統、31 系統）  
 四条河原町 → 京大正門前または百万遍（約 20 分）

地下鉄烏丸線今出川駅から京都市バス（203 系統、201 系統、102 系統）  
 烏丸今出川 → 京大正門前または百万遍（約 10 分）

地下鉄東西線東山駅から京都市バス（206 系統、201 系統、31 系統）  
 東山三条 → 京大正門前または百万遍（約 15 分）

京阪出町柳駅から徒歩（約 15 分）

## 日本中世英語英文学会西支部会則

第1条(名称) 本会は日本中世英語英文学会西支部(The Western Division of the Japan Society for Medieval English Studies)と称する。

第2条(目的) 本会は日本中世英語英文学会の支部機関として同会と連携しつつ、支部会員の研究の促進と交流のために寄与することを目的とする。

第3条(事業) 本会は第2条に定めた目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究発表会および支部総会の開催(年1回)
2. 講演会の主催および共催
3. 各種情報の連絡・通知
4. その他必要と認めた事業

上記の事業を行うために支部会費を徴収する。会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。

第4条(会員) 本会は第2条に定める目的に賛同し、会費を納入するものを会員とする。

第5条(役員)

1. 本会に次の役員を置く。

支部長 1名 運営委員 5名 監査委員 1名

支部長および監査委員の任期は2年、運営委員の任期は3年とし、原則として再任は認めない。ただし、1期以上の間をおいて再任され得るものとする。

2. 役員の仕事

- (イ) 支部長は本会を代表し会務を統括する。
- (ロ) 支部長は運営委員会を招集してこれを主宰する。
- (ハ) 運営委員は本会を運営する。
- (ニ) 監査委員は本会の財産および事業の執行状況を監査する。

3. 役員を選出

- (イ) 支部長は運営委員の推薦(互選を含む)により支部総会にて承認を受けるものとする。
- (ロ) 任期満了に伴う運営委員の補充は運営委員会の推薦によるものとする。
- (ハ) 監査委員は運営委員の推薦により総会にて承認を受けるものとする。
- (ニ) 支部長が運営委員の中から選ばれた場合はその運営委員の補充を行うものとする。

第6条(会則の改正) 本会則の変更は運営委員会が発議し、支部総会で決定する。

付則 本支部会則は 2001 年 6 月 17 日から施行する。

#### 細則

- (1) 第 5 条 1 項に定める運営委員の構成にあたっては分野および地域性を考慮する。
- (2) 第 5 条 1 項に定める運営委員は半数改選（2 名もしくは 3 名）を原則とする。
- (3) 在外研究その他の事由で支部長、運営委員、監査委員に欠員が生じた場合は、第 5 条第 3 項の規定に準じて補充する。
- (4) 第 4 条に定める会費は年額 2,000 円とする。

修正細則：一般 2,000 円の外に、非常勤講師・退職者・学生・大学院生 1,000 円、70 歳以上で一般会員として 20 年以上経過した方の終身会費 10,000 円の制度を設ける。

附則 本細則は 2001 年 6 月 17 日から、本修正細則は 2009 年 6 月 14 日から施行する。

### 2016 年度西支部事務局

支 部 長：地村彰之

運営委員：井野崎千代子、平山直樹、三浦あゆみ、森ユキエ、吉川史子（五十音順）

監査委員：大野英志

◎ 日本中世英語英文学会西支部の振込用口座番号は以下の通りです。会費の納入などにご利用ください。

ゆうちょ銀行

記号 01320-7

番号 90883

なまえ ニホンチュウセイエイゴエイブンガツカイニシシブ

ところ 郵便番号 700-0005 岡山市北区理大町 1-1

岡山理科大学教育学部地村彰之研究室内

支部長 地村彰之

